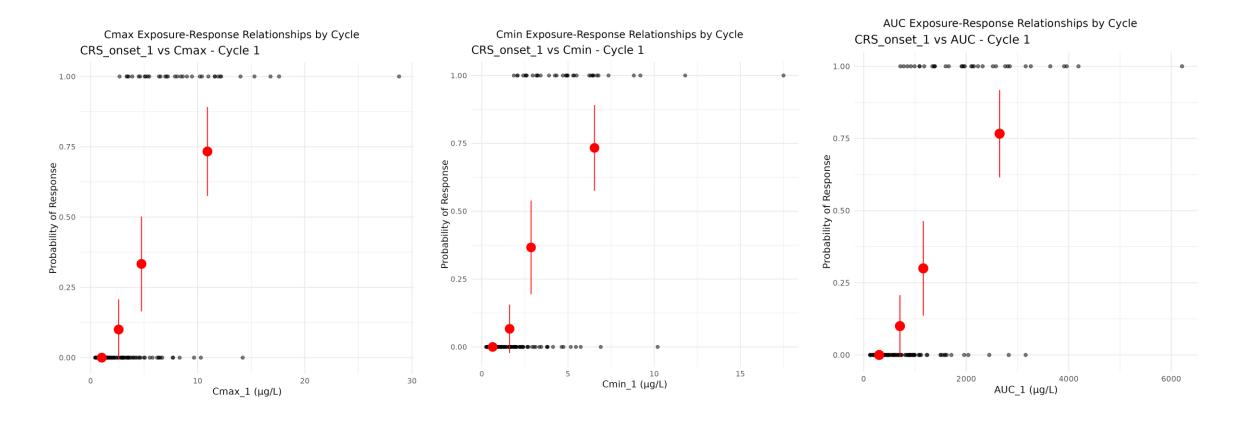
演習 2

Exposure-Response (ER) 解析を用いた用量設定

- 解答 -

Exposure-安全性解析

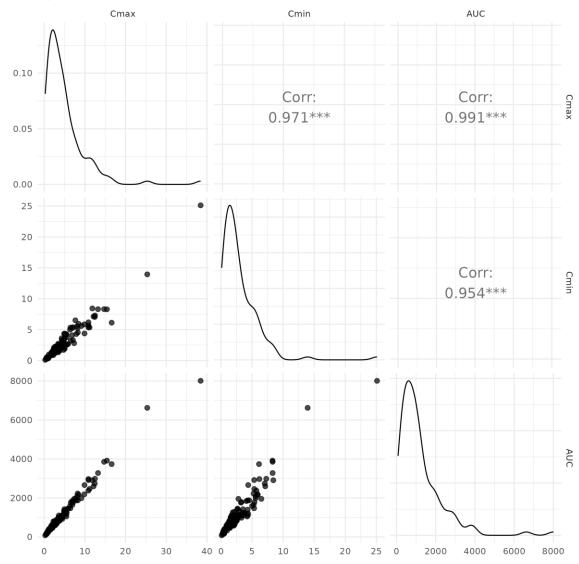
Exposure-Response for CRS: Cycle 1に着目 (Cycle 2以降のCRS発現率は低く, Cycle 1を如何に抑えられるかが重要)



曝露依存的な発現率の増加が認められるが,Exposure Metrics間で似通ったER関係

Exposure Metricsの相関関係

Cycle 1 - PK Parameter Correlation



パラメータ間が非常に相関しており、識別できない

Exposure-Response for CRS: Model Fitting

Responseの特性・数値的なAIC比較からはCmaxがpredictorと考えられるが、差は小さく、metricsは強く相関しており、どちらが真のドライバーかはデータからは結論付けられない



AUCは同じだがCmaxが異なる様な用法変更のシミュレーションには使いづらい

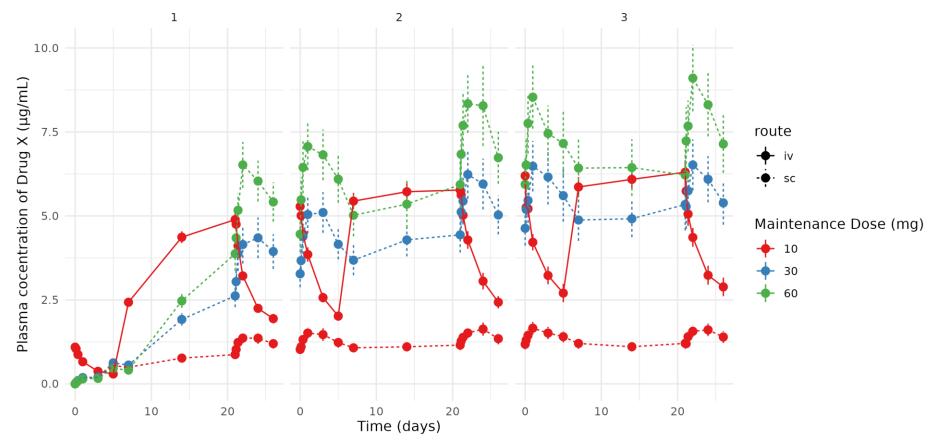
どうしたら良

(1)?

Exposure-Response for CRS: IV データの追加

演習1ではRP2Dとして10 mgを選択したiv expansion cohortを実施していた

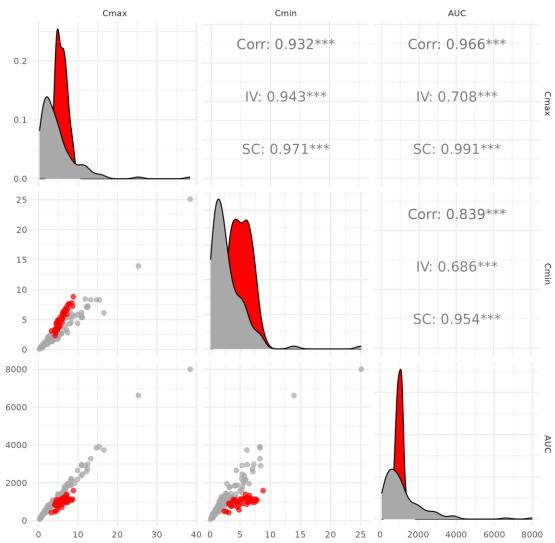
PK Profile (Median and 5th-95th Percentile) at by Cycle



Exposure Metrics間の関係が異なるデータを追加できる

IV データ追加時のExposure Metricsの相関

Cycle 1 - PK Parameter Correlation



Exposure Metricsは相関しているものの、完全相関ではなくなった

IV データ追加時のModel Fitting

AICの比較

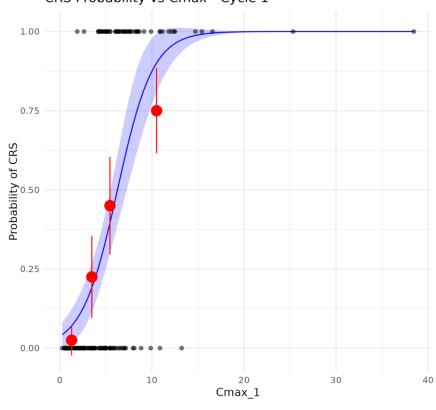
Table: AIC Comparison by Exposure Metric and Cycle (CRS)

Exposure Metric	Cycle Model Name	AIC
:	: :	:
Cmax	1 Cmax_1	154.6
Cmin	1 Cmin_1	155.7
AUC	1 AUC_1	175.7

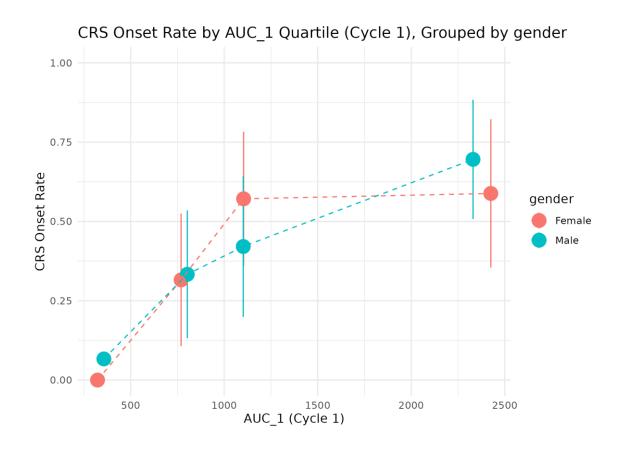
Cmax・Cmin > AUCは言えるだろう。 Cmax or Cminはデータからは分からないがResponse の特性からCmaxと判断する。

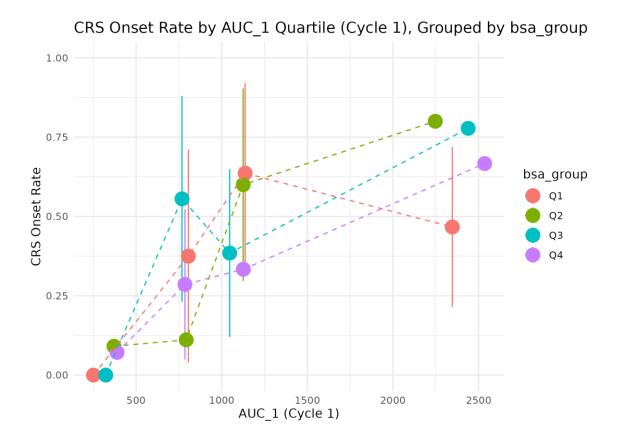
モデルのデータへの当てはまり

 ${\it Cmax\ Exposure-CRS\ Relationships\ by\ Cycle}$ CRS Probability vs Cmax - Cycle 1

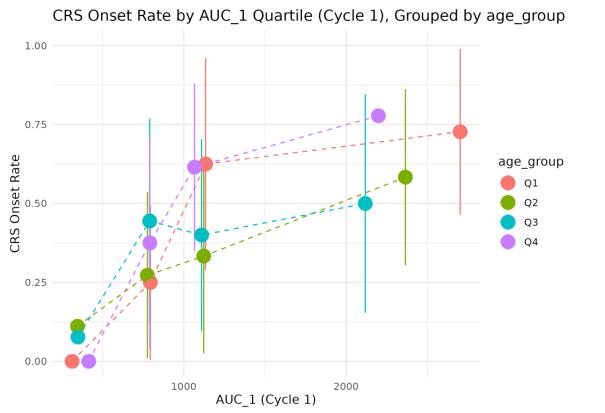


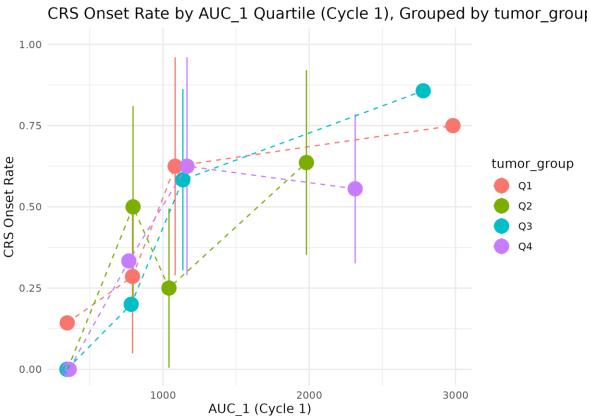
共変量の影響:性別,体格





共変量の影響:年齢・腫瘍サイズ

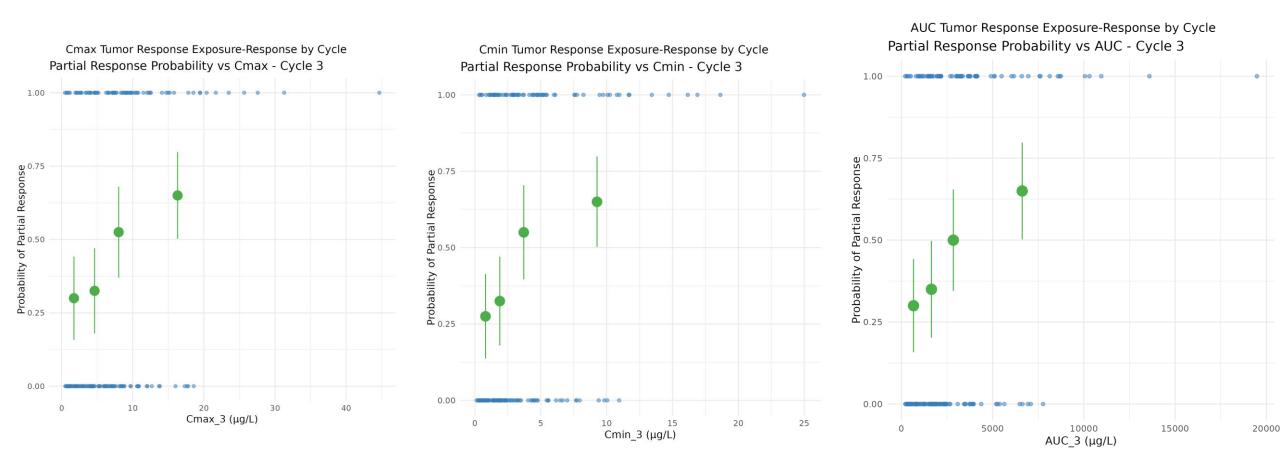




ER関係に顕著な共変量の影響はなさそう

Exposure-有効性解析

Exposure-Response for RR:Responseの特性から定常状態(Cycle 3)でのExposure Metricsに着目



曝露に依存した顕著な反応性の増加。見た目でのExposure metrics間のER関係の違いは小さい。

Exposure-Response for RR: Model Fitting

AIC値の比較

Table: AIC Comparison by Exposure Metric and Cycle (Tumor Response)

Exposure Metric	Cycle Model Name	AIC
:	: :	:
Cmax	3 Cmax_3	208.0
Cmin	3 Cmin_3	206.5
AUC	3 AUC_3	206.6

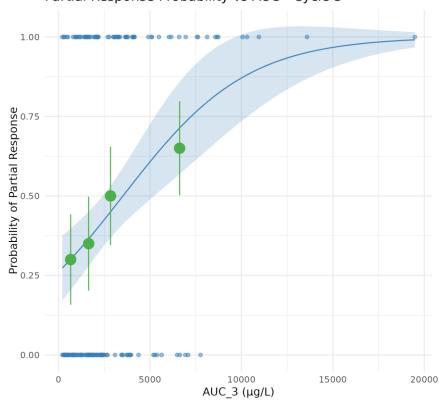
- AICでもExposure metrics間に違いはない。
- エンドポイント (腫瘍サイズに基づいたRR) のターンオーバー は比較的長く, 瞬間的な曝露の上昇・低下がもたらすイン パクトは大きくないだろう



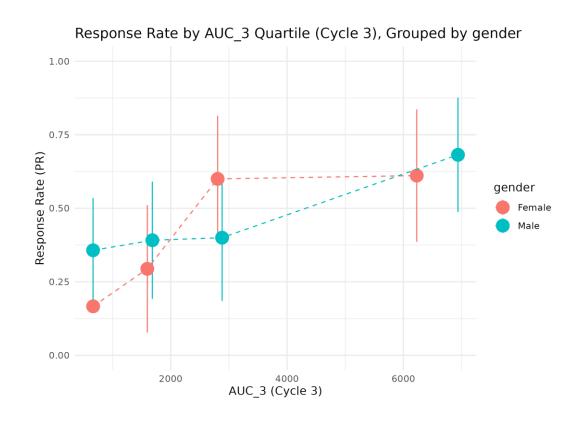
AUCをExposure metricsとする

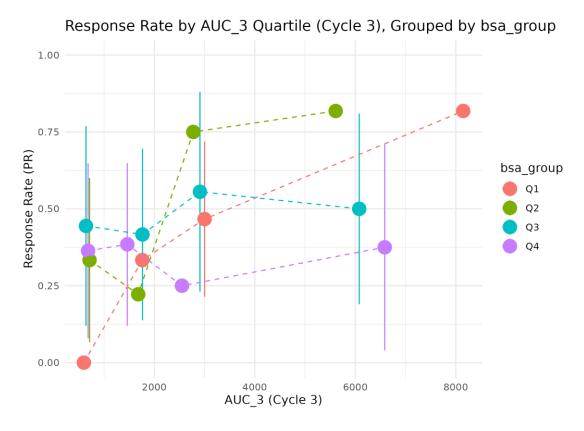
モデルのデータへの当てはまり

AUC Tumor Response Exposure-Response by Cycle Partial Response Probability vs AUC - Cycle 3

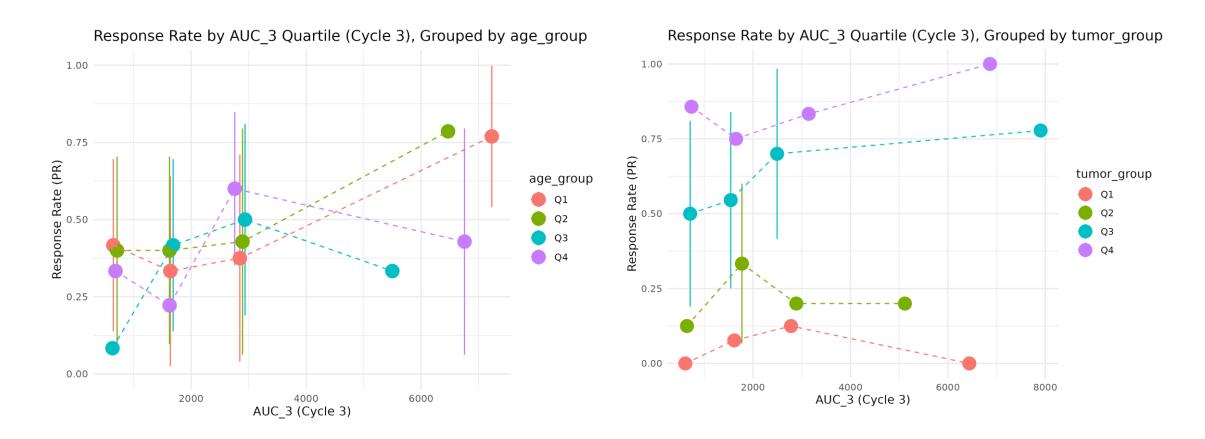


共変量の影響:性別,体格



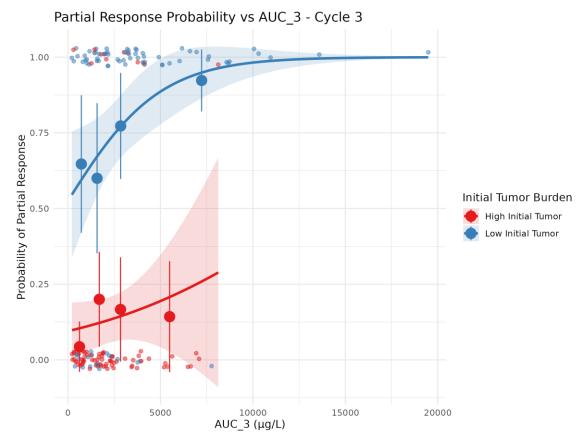


共変量の影響:年齢・腫瘍サイズ



Baseline Tumor SizeでResponseが異なる?

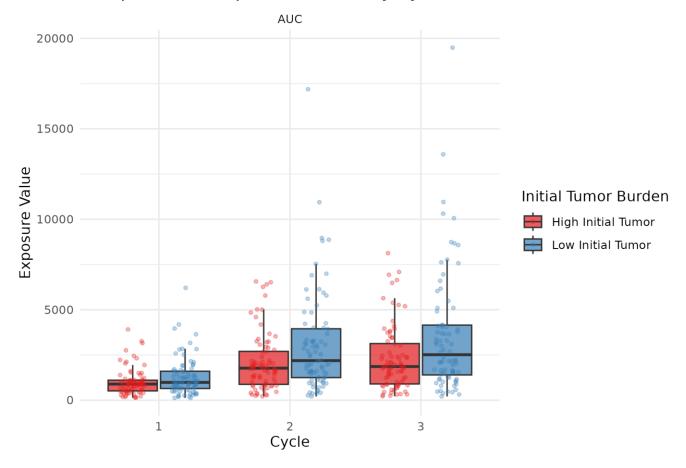
共変量の影響: Baseline tumor size Baseline tumor sizeの中央値で層別したER関係



Baseline tumor sizeが小さい例で反応性が高い

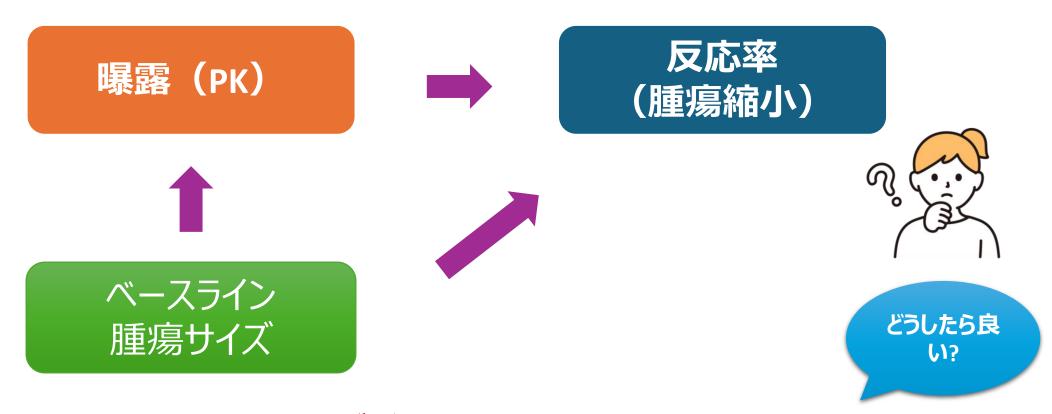
共変量の影響:PKへの影響は?

Comparison of Exposure Metrics by Cycle and Initial Tumor Burden



Baseline tumor sizeが小さい例で血中濃度が高い

交絡の関係



ベースラインの腫瘍サイズが交絡因子となって反応率への影響が過大評価された可能性が高い

交絡の制御

・ランダム化

✓交絡要因でランダム化割り付けする

・マッチング

✓比較する手段で交絡要因の分布が偏らない様に二つの集団の被験者をマッチングする

・層別解析

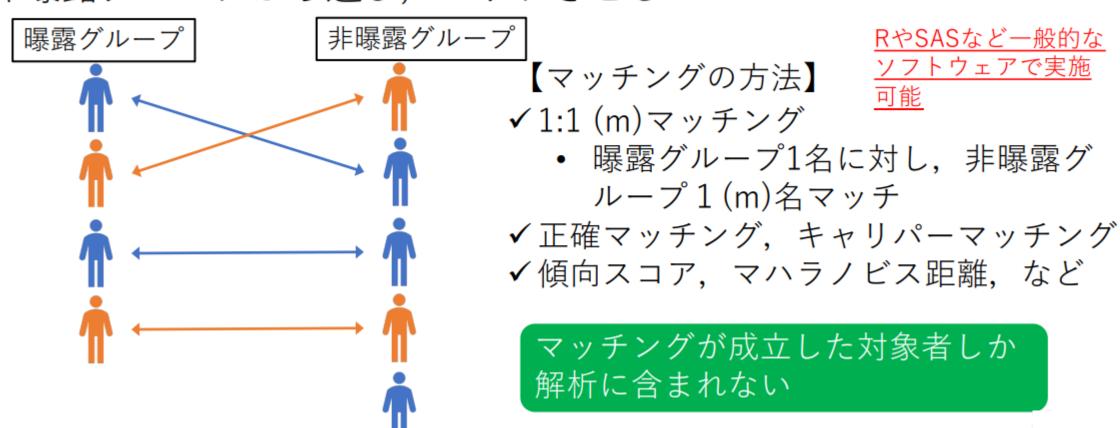
✓交絡要因の各層で解析し, その結果を併合

・共変量調整

✓統計モデルによって交絡要因の影響を調節

マッチング

●曝露グループの対象者と交絡要因の値が同じ(似た)対象者を 非曝露グループから選び、マッチさせる



共変量調整

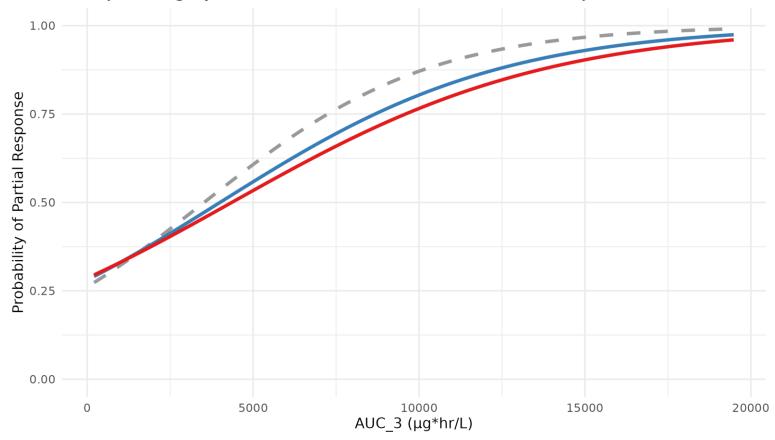
交絡因子による影響を調整したロジスティック回帰の実施

 $logit = log(\frac{P}{1-P}) = intercept + slope \times \frac{exposure\ metrics}{exposure\ metrics}$ + Coef × Initial tumor

交絡因子による調整

交絡の制御前後でのER関係の比較

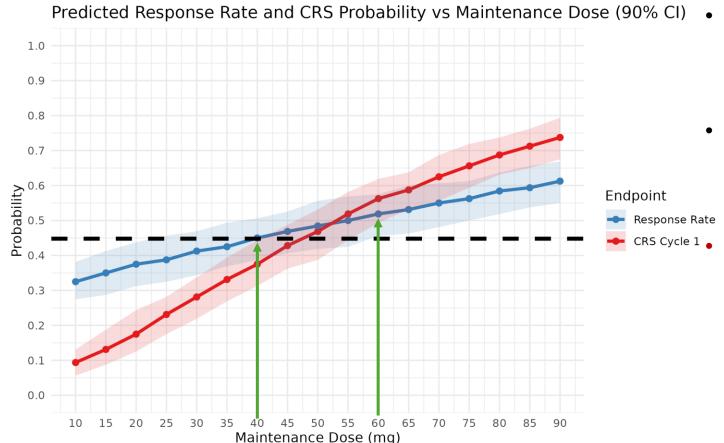
Partial Response Probability vs AUC_3 Unadjusted (gray), Covariate-matched (blue), Covariate-adjusted (red)



交絡の制御をしなかった場合、Responseを過大評価するリスクがある

第III相用量の選択

Simulationにより求めたDR curve



- ・ 案1:3/6/40 mg
 - 標準治療と同程度の有効性
 - CRS (≥Grade 2) at Cycle 1発現率は 37.5%程度
- ・ 案2:3/6/60 mg
 - 標準治療での有効性を上回る
 - CRS (≥Grade 2) at Cycle 1発現率は55% 程度

案3:X1/X2/60 mg

- 有効性は案2を維持しつつ, CRSを下げる
- Phase I/II試験出られたPK, サイトカインデータをモデル化(演習1と同様)し、SCに最適なステップアップ dosingを設定する

※Response rateのシミュレーションは共変量adjusted modelを利用